



と www.tenpla.net

プラネタリウム

☆ 高梨直紘 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

今月のお題

新しい料理の発見は、人類の幸福に貢献する

最近はずっかり旅行とご無沙汰していましたが、そろそろどこかにお出かけしたいな、と。

は、いわばの一流シェフのスペシャリテのようなもの。その土地ならではの星空の素材を活かし、科学風や神話風などシェフお得意のテイストを加えて仕上げられた、郷土色豊かな極上の一品です。各地に根付いて活動している個性溢れる解説員の皆さんの技や想いを味わえる、またとない機会になるはずです。

新しい料理の発見は、新しい星の発見よりも人類の幸福に一層貢献する。『美味礼賛』で有名な美食家のサヴァラン先生はそのようにおっしゃったそうですが、ここで言う「料理」を星空解説だと置き換えて考えると、なんだかとても良いことを言っているような気がしませんか？新しい星の発見はもちろん人類の幸福に貢献しますが、それを素材に創り上げた物語は、人類の幸福により一層貢献する。考えようによっては、例えば宮沢賢治の紡ぎ出した物語だって、そういったもののひとつかもしれません。物語は本の中だけにあるものだけではありません。もちろん、感染症には十分注意しながらになりますが、この夏は皆さんもどこかに星空の素敵な物語を探しに行かれてはいかがでしょうか。

新型コロナウイルスに日常を支配されるようになってから、早3年。考えてみると、この間に私が住む関東から外に出たことは1回しかありません(友人の結婚式)。それまでは比較的によく出かけていたことを考えると、旅行という面では、すっかり様変わりしてしまいました。慣れとは恐ろしいもので、最近では遠出しないこと自体もあまり違和感を感じなくなっています。身近な生活を楽しんでいると言えば聞こえはいいですが、すっかり世界が狭くなってしまったとも言えるでしょう。そろそろどこかにお出かけしたい…でも、どこへ行こうかなと？

行き先選びで悩んだときには、星空や天文・宇宙関連の施設を売りにしているところに出かけてみるのも、本誌の読者にはお勧めかもしれません。「宙ツーリズム」という名称で最近、話題になっているやつです。綺麗な星空を楽しめる場所、すてきな天文台がある場所、ロケットの発射場がある場所、等々。長野県の阿智村や、星取県の名前でPRしている鳥取県などは特に有名ですが、全国各地で星空や宇宙を観光資源とする取り組みが始まっています。ちょっとネットで調べるだけでもいろいろな情報が出てきますから、ぜひ調べてみてはいかがでしょうか。

もし実際にどこかにお出かけすることになったらぜひお勧めしたいのは、その取り組みを支えている方々とお話されてみることです。例えば天体観望会に参加した場合。その土地の空気の中で星空を楽しむだけでも十分味わい深いと思いますが、その星空が日常となっている人たちは、いったいどんな感覚で星空を楽しんでいるのか。ちょびっと勇気を出して話しかけてみれば、きっといろいろとお話してくれるでしょう。他愛のないおしゃべりの中であっても、そこから彼らの宇宙観にふと触れることもあるかもしれません。それは、もしかすると自分とよく似ているかもしれないし、まったく違うものかもしれません。彼我の相似や相違を知ることが、自分自身の星空や世界の見え方をより豊かなものにしてくれることでしょう。単純に、自分の知らない話は楽しいですしね。

そのような意味では、プラネタリウムや公開天文台に足を運んでみることもお勧めです。日本は、世界的に見てもそのような施設が多い国のひとつ。自治体の運営する公的な施設から、企業の経営する施設まで、さまざまな施設が全国各地に散らばっています。投影された星空でも、天然の星空でも構いませんので、とにかく星空を前にした生解説が聞けるところに行ってみましょう。解説員による生解説と



星空の下だと、なんとなく話しやすくないですか？